

## (2)通読とディボーション

毎日の日課に、通読（聖書の全体を順序通り読んでいくこと）と、ディボーション（主と交わること、読んだ聖書の箇所への黙想など）の二つの要素が入っていることが重要です。

### (1)どのような思いで通読するか

自分の(世の)考えや価値観が、主の考え・価値観に入れ替えられることを期待して読む

「純粋な御言葉の乳」(1 ペテロ 1:23～2:2) ➡ 霊の食物としての聖書

### (2)黙想の重要性

読んだ箇所を思いめぐらし、読みながら心を打たれたことなどを言葉にして主に申し上げたり、ノートにメモを取ったりしながら読む（詩編 143:5）

### (3)どこから読んだらよいか？

聖書の内容を理解し身につけるためには、①好きな箇所だけでなく全体を知ることと、②信仰の歩みの土台となる箇所をじっくり学んで身につけること の二つが必要です。

#### ①全体を通して読む（通読）

聖書は、旧約も新約も全ての箇所が必要（ローマ 15:4 2 テモテ 3:16～17）

【時】 習慣化することが大事

【量】 1日4章読むと、1年間で旧新約聖書全巻を通読できる

・最初はゆっくりでも良いので、上記(1)の目的を意識しながら読みましょう

【ポイント】 各書物の全体像を意識すると理解、記憶の助けになる。

【有益な副読本】 ・簡単なものでも良いので緒論を読んでからその書簡を読み始める

・聖書地図 ・図解 ・通読表

#### ②福音の土台となる箇所を集中して読む

自分が召されたことと選ばれたことを確かなものとする箇所（2 ペテロ 1:10）

【時】 ・定期的に（例：毎週○曜日） ・集会の日に合わせて等 【量】 1時間～

【ポイント】 ・著者は何を言おうとしているのだろうか？

・今日の箇所と前回の箇所とのつながりは？

【最適な箇所】 ローマ書 ➡ 十分にできたら他の新約書簡

#### 通読とディボーションを始めましょう

【時】原則として毎日 ⇨ いつ(時間帯)行いますか？ [ ]

【量】毎日続けられる量 ⇨ どのくらいから始めますか？ [ ]

【場所】習慣化しやすい場所 ⇨ [ ]

【持ち物】 ノート、聖書地図、 [ ]

※ローマ書等の集中的な学び（上記②）も可能ならば予定を立てておきましょう。